

学習評価

児童生徒の学習評価から授業評価を行い、指導方法を振り返り授業改善を日常的に進めましょう。

学習評価は、児童生徒個々の学力把握のために行うものです。学習評価の結果を学習指導に活用していくことが大切です。学習評価は、普段の授業の中で計画的、効率的に行うことが重要です。

Plan

ねらいや評価規準を明確にした指導計画等の作成

授業で評価を行うには、評価規準にあわせて評価方法を決めて、学習活動を考えていくことが必要です。児童生徒の思考や発言・行動をどのようにして見取るのか、学習活動のどの場面で児童生徒の変容を見取るのか、「努力を要する」児童生徒への支援を想定し、指導計画を作成していきます。

Do

授業の実施

「B おおむね満足」の実現が困難な児童生徒に対して適切な手立てを行います。

授業づくりのポイント

- ☐ 学習意欲を喚起する手立てが工夫されていますか？
- ☐ 自ら考え、判断し、表現する場面が設定されていますか？
- ☐ 学習したことを振り返る場面が設定されていますか？

児童生徒の様子から、その意味を把握することも大切です。寝ていたり、おしゃべりをしたりなど、なぜそのような行動を取るのか原因を分析し、どのような手立てを行えばよいか考えることも授業改善につながります。



Check

評価

児童生徒の学習状況の評価を行います。目標を実現することができたかを振り返り、評価方法、学習活動、教材・教具などが児童生徒の実態に合っていたかを見直していきます。

振り返りのポイント

- ☐ 目標を実現することができましたか？
- ☐ 評価規準は適切でしたか？
- ☐ 評価方法の妥当性、信頼性はありますか？
- ☐ 努力を要する生徒への手立ては適切でしたか？
- ☐ 活動の内容と時間は適切でしたか？
- ☐ 効果的に教材・教具を活用できましたか？

児童生徒が目に見える形で評価することも大切です。ノートやプリントに、シールやスタンプなどで印をつけることで、達成状況を伝えることができます。



Action

授業・指導計画の改善

評価結果を分析して授業や指導計画を改善します。また、評価方法についても評価場面や評価時期、評価方法など改善を図ります。

評価の改善のポイント

- ☐ 学習後（総括的）の評価だけでなく、学習前の児童生徒の状況把握（診断的）や学習過程（形成的）など評価場面を工夫する。
- ☐ 学期末や学年末だけでなく、目的に応じて、単元ごと、単位時間ごとなど評価する時期を工夫する。
- ☐ 評価方法は、ペーパーテストのほかにも、観察、作品、質問紙、ノート、レポート、実技などを用いて工夫する。